

父の親切から感じたこと

大阪府 四條畷学園中学校 3年 上田 侑季

私の父は無口です。しかしある日、私の「無口な父親」という印象をくつがえすできごとが起きました。

家族で買い物に出かけたときでした。一台の車が私の視界に入ってきました。その車は渋滞の中、道の真ん中に止まっていた。そこには信号や停止のマークもありません。私はどうしたのだろうと思っただけでそれ以上気にもせず、足を進めようとした時でした。

「どうしましたか。大丈夫ですか。」

大声でその車に呼びかけている人がいました。父でした。すると車の中から女性が降りてきました。その女性は慌てた様子で、

「車が動かなくなっちゃって。」

と、かたことの日本語で父に言いました。父は、

「じゃあ、とりあえず車を端に押しましょう。」

私は思いもしなかった父の行動に驚き、ただ呆然と見ていました。

私の父は車関係の仕事をしています。だから、一般の人よりは車に詳しい方です。

「どうですか。直りますか。」

と、女性が車の下をのぞいている父に問いかけました。父は難しそうな顔をしました。私は車の中に小さな男の子が二人乗っていることに気がつきました。その時、

「アリガトウ。アリガトウゴザイマシタ。」

女性の安心したような声が聞こえました。父は私のほうに戻ってきて、

「行こう。」

とだけ言いました。私は父に、どうなったのかと聞いても返事はありませんでした。

その後、母に聞いてみると、車の故障部分は道具がないと直せないの、整備会社に電話をした方がいいと、父は女性にすすめたそうです。あの無口な父が困っている人に声をかけた親切な行動は、女性を安心させることができたと思います。子ども二人を乗せて、道の真ん中で止まってしまって、どうしていいのかわからなかったと思います。

父は英語を話すことができません。女性は日本語が理解できたからよかったけれど、日本語がわからなかったら父はどうしていたのだろう。きっと必死でジェスチャーで説明したと思います。

結果的にはあまり役に立つことがなかったから、「小さな親切」だったのかもしれませんが。しかし私は、親切には大きいも小さいもないと思います。小さな親切でも相手にとっては、大きな親切になるかもしれません。また、困っている人を助けることには大きいも小さいもないと思います。

この体験は約6年前の話です。親切にした人も、された人も、見た人も、親切な行為はずっと心に残り、温かい気持ちになります。